



「CO²れんら君」(右)とモニター
の設置例



林 智広リーダー

NKE

換気状況を可視化する新商品

簡易情報連絡端末「れんら君」シリーズ 住宅の安全・安心にも

工場自動化機器や電子ネットワーク機器メーカーのNKE(社長＝中村道一氏、本社・京都市伏見区)は、すべてのモノがインターネットにつながるIoTを

既存設備への後付けで簡単に構築できる簡易情報連絡端末「れんら君」シリーズの新商品として「CO²れんら君」を今夏に発売した。空気中の二酸化炭素(CO²)濃度をセンサーで連続的に測定し、モニター画面に表示させるもの。CO²濃度の画面表示で人が集まる閉鎖空間の換気状況を可視化することが可能。警報プザーやメール通知と連動させる機能も実装しているため、換気の必要性を利用者に伝える指標的な役割を果たす。同社は「CO²れんら君」を住宅内での感染症対策用途でも展開できると見込む。新築住宅の居住者の安全・安心に資する室内の換気状況の可

視化機能を新築住宅の付加価値として訴求したい意向だ。

ウイルス感染リスクの軽減には「密閉」「密集」「密接」の3密回避が不可欠。3密の一つ「密閉」対策では、室内の換気が有効とされる。「CO²れんら君」の設置方法は換気状況を可視化したい場所に本体を据え付け、LAN回線を用いてネットワークとパソコンに接続するだけ。測定データをパソコン、スマートフォン(スマホ)、タブレット端末などの表示画面で確認することが可能になる。モニター画面には、CO²濃度のほか、温度、湿度の各数値を常時表示する。また温度・湿度環境から算出された熱中症警戒レベル(レベル1～レベル4の4段階)、インフルエンザ警戒レベル(同)のいずれかを季節に合わせて画面上で切り替え表示できる。

過去400日分の状態記録を自動保存する機能も備えている。前日の時間とセンサー情報を記録したCSVデータとグラフ画面をメール送信することができ、データは本体に保存される。利用者が後から自由に閲覧することが可能。表示機能にとどまらず、例えばCO²濃度が設定値以上になった場合に警報プザーを鳴らしたり、通知メールを任意の宛先へ送付したりする警報プザーやメール設定機能も有している。警報プザーの有無やメール通知の条件・宛先はパソコンやスマホの専用アプリから任意で設定・変更することができ、「CO²れんら君」の通常本体価格は5万5千円(消費税別)、ネットワーク設定が不要で画面表示機能のみを利用することができ、HDMI端子付きタイプは6万円(同)。

同社は「CO²れんら君」の主な導入先としてクリニックの待合室や飲食店のホールなど、業務用施設での利用を想定している。販売促進グループの林智広リーダーは同商品の発売初年度となる現況について「新規のお問い合わせ件数が増えており、換気に対する国内での関心の高まりを感じている。各地方自治体で感染症対策に関連した補助金が予算執行されたこともあって採用先の中には補助金を活用した導入案件も複数あった」と話す。

一方、今後の新規需要先として住宅市場での開発営業にも意識を振り向けている。製造業など産業界の顧客が多い同社にとって住宅市場は新規開拓営業を伴うが、コロナ禍による家庭内感染が国内で深刻化していることを踏まえ、「今後は住宅内でも換気状況の見える化需要が浮上するとみている。新築住宅の安全・安心確保のための付加価値機能として「CO²れんら君」をハウスメーカー、工務店、さらには建材メーカーなどに対して提案し、新築住宅でのスペックインによって住宅市場での普及を促進したい」と(林リーダー)とした。